「エスプロカルブ農薬蜜蜂影響評価書(案)」についての 意見・情報の募集について

令和6年9月26日 農林水産省消費・安全局

この度、「エスプロカルブ農薬蜜蜂影響評価書(案)」について、広く国民の皆様から 意見・情報を募集いたします。

今後、本案については、提出いただいた意見・情報を考慮した上で、決定することと しております。

なお、提出いただいた意見に対して、個別の回答はいたしかねますので、あらかじめ 御了承願います。

記

1 意見公募の趣旨・目的・背景

農薬取締法(昭和23年法律第82号)第39条第1項の規定に基づき、農薬の登録、変更の登録等をしようとするときは、農業資材審議会の意見を聴かなければならないとされています。当該登録等の際に審査する内容のうち、蜜蜂への影響評価については、関連分野に高い知見を有する専門家で構成される農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会において、農薬の使用時に講ずべき被害防止方法に関する事項等を検討することとしています。

令和6年9月11日、当該部会において、農薬の有効成分であるエスプロカルブの農 薬蜜蜂影響評価書(案)について審議され、了承されました。

つきましては、本評価書案について、広く国民の皆様からの意見・情報を募集いた します。

- 2 意見公募の対象となる案及び関連資料の入手方法
- (1) e-Gov (https://www.e-gov.go.jp/) の「パブリック・コメント」欄に掲載 (農林水産省ホームページにあるリンクからアクセスが可能)
- (2)農林水産省消費・安全局農産安全管理課農薬対策室において配布
- 3 意見・情報の提出方法
- (1) e-Gov の意見入力フォームを使用する場合

「パブリック・コメント:意見募集中案件詳細画面」の「意見募集要領(提出先を含む)」を確認の上、<u>意見入力へ</u>のボタンをクリックし、「パブリック・コメント: 意見入力フォーム」より提出を行ってください。

(2) 郵送の場合

以下担当まで送付してください。 〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1 農林水産省消費・安全局農産安全管理課

4 意見・情報の提出上の注意

提出の意見・情報は、日本語に限ります。

電話での意見・情報はお受けしませんので御了承願います。

提出に当たっては、氏名及び住所(法人又は団体の場合は、名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)並びに連絡先(電話番号又は電子メールアドレス)を明記してください。御記入いただいた個人情報は、提出意見・情報の内容に不明な点があった場合等の連絡・確認のために利用します。

また、これらの情報は意見・情報の内容に応じ、農林水産省内の関係部署、関係府 省等に転送することがあります。

5 意見・情報受付期間

令和6年9月26日~令和6年10月25日 (郵送の場合も締切日必着とします。)

6 公示資料

エスプロカルブ農薬蜜蜂影響評価書 (案)

(案)

エスプロカルブ 農薬蜜蜂影響評価書

2024年9月11日 農業資材審議会農薬分科会 農薬蜜蜂影響評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病害虫の範囲及び使用方法	6
Ⅱ. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要	8
1. ミツバチに対する安全性に係る試験	8
2. ミツバチ個体への毒性(毒性指標)	9
3. 花粉·花蜜残留試験	9
4. 蜂群への影響試験	9
III. 毒性指標	10
1. 毒性試験の結果概要	10
2. 毒性指標值	10
3. 毒性の強さから付される注意事項	10
IV. 暴露量の推計	10
V. 評価結果	10
評価資料	11
評価資料 (公表文献)	11

<経緯>

令和 5年 (2023年)3 月22日農業資材審議会への諮問令和 6年 (2024年)9 月11日農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会 (第14回)

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿> (第14回)

(委員)

五箇 公一

山本 幸洋

(臨時委員)

中村 純

(専門委員)

永井 孝志

横井 智之

エスプロカルブ

- I. 評価対象農薬の概要
- 1. 有効成分の概要

1.1 申請者 日産化学株式会社

1.2 登録名 エスプロカルブ

S-ベンジル=1,2-ジメチルプロピル(エチル)チオカルバマート

1.3 一般名 esprocarb (ISO名)

1.4 化学名

IUPAC名: S-benzyl (RS)-1,2-dimethylpropyl(ethyl)thiocarbamate

CAS名: S-(phenylmethyl) (1,2-dimethylpropyl)ethylcarbamothioate

(CAS No. 85785-20-2)

1.5 コード番号 SC-2957, R-22957, NY-432

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式 C₁₅H₂₃NOS

構造式

分子量 265.42

2. 有効成分の物理的・化学的性状

<i>z</i> . 1	H XVI	成分 少物连时。	1074	1311年4人				
		試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果			
		色調・形状	98.7	官能法	無色液体			
		臭気	98.7	官能法	微かな芳香性のあるかび臭 あるいはじゃ香臭			
		融点		試験	省略 (室温で液体のため)			
沸点 98.7			98.7	OECD 103	131~133 °C (47 Pa)			
		密度	99.0	OECD 109	1.0353 g/cm ³ (20 °C)			
		蒸気圧	98.7	OECD 104	0.01 Pa (25 °C)			
		熱安定性	98.7	DSC法	250 ℃まで安定			
		水	98.7	OECD 105	4.92 mg/L (室温)			
溶		エタノール			> 1000 g/L (室温)			
	有	キシレン	98.7	フラスコ法	> 1000 g/L (室温)			
解	機	アセトン			> 1000 g/L (室温)			
	溶	ヘキサン	ヘキサン		> 1000 g/L (25 °C)			
度	度 媒 ジクロロメタン		95.7	CIPAC MT 157.3 フラスコ法	> 1000 g/L (25 °C)			
		酢酸エチル		ノノベコ伝	> 1000 g/L (25 °C)			
	解離定数 (pKa)			試験省略 (化学構造から解離しないと考えられる。)				
1-オ	クタ.	ノール/水分配係数 (log P _{ow})	99.0	フラスコ振とう法	4.62 (25 °C)			
	-	加水分解性	98.7	OECD111	安定(25及び40℃、30日間、pH 5、7及び9)			
	水中光分解性 99.0		99.0	EPA161-2	半減期21.1日(pH 7、25±1 °C、15~20 W/m²、 285~485 nm)			
紫外可視吸収 (UV/VIS) 99.0 スペクトル			99.0		吸収極大波長なし			
土壤吸着係数		OECD106	K ^{ads} Foc: 1940~4040 (4種類の国内土壌)					
			59農蚕4200号	粒剤、水田土壌:半減期 7.5日または8.0日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)				
		土壤残留性		12農産第8147号	・乳剤、畑地土壌:半減期25日または19日 (土壌の深さ10 cm、SFOモデルによる推定値) ・紛粒剤、畑地土壌:半減期6.1日または21.5日 (土壌の深さ10 cm、SFOモデルによる推定値)			

3. 申請に係る情報

令和6年6月現在、諸外国での登録はない。

4. 作用機作

除草活性を有するチオカーバーメート系化合物であり、超長鎖脂肪酸の生合成を阻害することで、細胞分裂を阻害すると考えられている。

(HRAC 分類:15*)

※参照: https://www.hracglobal.com/

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

(1)登録番号 17025:日農フジグラス粒剤 17 (エスプロカルブ 7.0%・ベンスルフロンメチル 0.17%粒剤)

		, ,,,,,			, .		1-/14/		
作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用方法	適用地帯	エスプ [°] ロカルフ [°] を含む農 薬の総使 用回数	へ、ンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草マツハ・イ ホタルイ ウリカワミス・カ・ヤツリ クロケ・ワイコウキヤカ・ラ(九州) オモダ・カ ヒルムシロ セリ アオミト・ロ・ 藻類に よる表層はく離	移植後5日~ ル*ェ2.5葉期 た だし、移植後30日 まで		3 kg/10 a	1回	湛水散布	全海北く)の期早培帯	1回	2 回 以内

(2)登録番号 18225:スパークスター粒剤 (エスプロカルブ 5.0%・ジメタメトリン 0.20%・ピラゾスルフロンエチル 0.070%・プレチラクロール 1.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤 の 使用 回数	使用方法	適用地帯	エスプ [°] 叻 パブ を 農薬の 総使用 回数	ジタ外 リンを農薬 の総数 用回数	t° ラグスル フロンエチル を薬更 総 回数	プレチラク ロールを 含む 農薬の総 使用回数
植水	水田一年生雑草マツハ・イ ホタルイ ウリカワ ミス、カ、ヤツリ(北海道 を除く) ヘラオモダ、カ クロク、ワイ(北海道を 除く) オモダ、カ(北海道を 除く) セリ(九州を除く) セリ、カーサマスカケ、サ(北 海道) アオミト、ロ・ 藻類に よる表層はく	移植日~ ル*ェ2.5 葉たし植日で 30 で	砂壤 土 埴土	3 kg /10 a	1 回	湛水散布	全 単 及 期 び 栽 帯	1回	2 回 以内	1 回	2 回 以内

(3) 登録番号 18576: ゴーサイン粒剤、

登録番号 18578: SDSゴーサイン粒剤、 登録番号 23664: OATゴーサイン粒剤

(イマゾスルフロン 0.30%・エスプロカルブ 7.0%・ダイムロン 5.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤 の 使用 回数	使用方法	適用地帯	イマゾ スルフロ ンを含む 農薬の総 使用回数	ノを含む農薬 の総体	ダイム いを 含む 農薬 の総使用 回数
移植水稲	水田一年生雑草マツハ・イ おタルイ ウリカワ ミズ・カ・ヤツリ ヘラオモダ・カ(北 道、東北) ヒルムシロ セリ アオミト・ロ・ 秦 に、 離	移10 / 上葉だ植日 植日~ 2.5 を 4 / 2.5 を 5 - エ期し後ま を 6 / 上葉だ植日 後 7 / 2.5 を 7 / 2.5 を 8 / 2.5 を 8 / 2.5 を 8 / 3.0 で 8 / 2.5 で 8 /	砂塩土土 集土	3 kg/ 10 a	1 回	湛水散布	北畿四期帯の及栽 近国早地・国栽を普び培 畿四期帯 中の培除通早地・国栽帯 中の培除通早地・国栽帯	2 回 以内	1 回	3回以内 (育苗和以 1回本は2 回以内)

(4) 登録番号 23092: バンバン細粒剤 F

(エスプロカルブ 6.0%・ジフルフェニカン 0.15%粉粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用時期	適用 土壌	使用量	本剤 の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯	エスプ [°] ロカルフ [*] を含む農 薬の総使 用回数	ジブルフェニカン を含む農 薬の総使 用回数
小麦 (秋播) 大麦 (秋播)	一年生雑草	は種後 出芽前~ 出芽揃 期(雑草 発生前)	全土壌 (砂土を 除く)	3~5 kg/ 10 a	1 回	全面 土壤散布	全域 (北海道 を除く)	1 回	1 回

Ⅱ. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

エスプロカルブのミツバチに対する安全性に係る試験を表1に示す。

表1:ミツバチに対する安全性に係る試験

試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験		1	0
成虫単回経口毒性試験		0	0
成虫反復経口毒性試験	第1段階	0	0
幼虫経口毒性試験		0	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

* (参考) 公表文献の検索結果 (資料3、4)

②J-Stage

(生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野)

データベース名:

①Web of Science (Core Collection)

①2006年9月30日から2021年12月31日

検索対象期間: ②2006年9月30日から2021年12月31日 ②2006年1月 1日から2021年12月31日

「生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野」に該当する文献数

【<u>表題と概要</u>に基づく適合性の有無の評価】 明らかに評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性なし」以外の文献数

6

7

【<u>全文</u>に基づく適合性の有無の評価】 評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性あり」の文献数

3

【適合性の分類】

分類基準を設定して全文をレビューし、評価目的への適合性をa、b、c の3つの区分に分類

「区分a; リスク評価パラメーターを設定又は見直すために利用可能と判断される文献

区分b; リスク評価パラメーターを設定する際の補足データとして利用が可能と想定される文献

区分c; a又はbに分類されない文献

「区分a」及び「区分b」に分類された文献数

a	_ b
0	1

試験生物として「セイヨウミツバチ (Apis mellifera)」を用いている

番議の対象とする文献数 0 0	審議の対象とする文献数	a	<u> </u>	
	対象とする文献数	0	0	

2. ミツバチ個体への毒性(毒性指標)

2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、 48 h LD_{50} は >197.4 μg ai /bee であった。

表 2: 単回接触毒性試験結果(資料 2、1986年)

被験物質	原体						
供試生物/反復	セイヨウミツバチ	セイヨウミツバチ(Apis mellifera)/ 3反復、20頭/区					
準拠ガイドライン	記載なし	記載なし					
試験期間	72 h						
投与溶媒(投与液量)	アセトン(2.0 μL)						
暴露量 (設定量に基づく有効 成分換算値) (μg ai /bee)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	19.7	98.7	197.4			
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/60 (0 %)	0/60	5/60	10/60			
LD ₅₀ (μg ai /bee) (48 h)	>197.4						
観察された行動異常	本試験では行動異	常を観察の対象と	:していない				

2.2 成虫単回経口毒性試験

該当なし

2.3 成虫反復経口毒性試験

該当なし

2.4 幼虫経口毒性試験

該当なし

3. 花粉·花蜜残留試験

該当なし

4. 蜂群への影響試験

該当なし

Ⅲ. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表4に示す。

表 3: 各試験の毒性値一覧

毒性試験		毒性値
# 土 产 (初天	エント゛ホ゜イント	試験1
成虫 単回接触毒性	48h LD ₅₀	>197.4 μg ai/bee

2. 毒性指標値

成虫単回接触毒性については、48h LD₅₀ 値(>197.4 μg ai/bee)を採用し、毒性指標値を 190 μg ai/bee とした。

エスプロカルブのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値を表5に示す。

表 4: エスプロカルブのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標	値(単位)
成虫	単回接触毒性	48h LD ₅₀ (μg ai/bee)	190

3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性の LD $_{50}$ が $11~\mu g/bee$ 以上であったため、注意事項は要しない。

IV. 暴露量の推計

本剤は、昆虫成長制御剤に該当せず、成虫の急性接触毒性(接触毒性試験の LD50値)が11 μg/bee 以上であることから、1 巡目の再評価において、リスク評価を行う対象とはしない。そのため、暴露量の推計は行わない。

V. 評価結果

エスプロカルブは、申請された適用方法に基づき使用される限りにおいて、ミ ツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

評価資料

資料 番号	報告年	題名、出典(試験施設以外の場合) 試験施設、報告書番号 GLP 適合状況(必要な場合)、公表の有無	提出者
1	2022	エスプロカルブ 試験成績の概要及び考察 未公表	日産化学(株)
2	1986	SC-2957原体のセイョウミツバチに対する急性毒性試験 玉川大学ミツバチ科学研究所 Report No.: 記載なし 非 GLP、未公表	日産化学(株)
3	2022	公表文献 有効成分名:エスプロカルブ 公表 URL:https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/kouhyoubunken.html	日産化学(株)
4	2023	公表文献調査報告書 エスプロカルブ(追補) 公表 URL:https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/kouhyoubunken.html	農林水産省

評価資料(公表文献)

該当なし